



ひっ、ひだより

No. 9 2017. 11. 28

このところ、急に寒さが厳しくなってきました。朝、ひっぴの森に入ると、一面の霜で真っ白。長い冬の眠りに入る森の木々たちもすっかり葉を落とし、森の奥の方まで見渡すことができます。

ひっぴの森のあちこちに散らばって遊んでいる子どもたちの様子が、遠くからでも見える季節になりました。

ある日、同じような大きさの四角い木と、棒を持った遼くんと絃くんが二人連れ立って森の中を歩いて行くのが見えました。二人で何やら声を掛け合い、時々、何かに向かって剣(棒)を振るい、見えない敵と闘っている様子。ぐるーと森を歩きながら、二人のごっこ遊びは続いていた。そのうちに私の近くまで来た遼くんが、急に「はい。お届けものです。」と持っていた四角い木を差し出してきました。あれ？いつの間にかお届けもの屋さんになっちゃったんだろう？と思いつながら、ありがとうと受け取ると、それをジッと後ろから見ていた絃くん「はい。」と同じように木を差し出し、受け取るとニッと笑顔。先に歩き出していた遼くんが振り向いて、「ちっち(絃くん)、行くよ!」と声を掛けると、絃くんはパッと駆け出し、二人はまた再び意気揚々と連れ立って歩いて行きました。

また別の日、森の方から出て来た凜くんが、フライパンとあ玉をカンカン打ち鳴らしながら、「さあ~あうちごころするよ~。」と仲間を募っています。それを近くの木の傍らで、咲斗くんがジッと見つめていました。すると咲斗くんに気付いた凜くん、「咲斗もいくか?」とさわやかに声を掛けました。「うん!」と咲斗くんは笑顔になつたので、凜くんの後を追いかけて森へ。森の中のお家で凜くんがケーキを作り始めると、咲斗くんは一人黙っておままごとの丘へ向かいました。シャベルとバケツを手にした咲斗くんは黙々と土をすくいます。それは凜くんのケーキのための土でした。

4月からひっぴの生活が始まったどんぐりさんたち。一学期の頃はお互いにやりたいことがぶつかり合って、手が出てしまったり、涙になったり。けれども、一年の半分以上が過ぎたこの時期、どんぐり同士の豊かな関わりが、森のあちこちで見られるようになりました。こちらが思わず心を動かされるような、やり取りや声掛けをしぼしぼ目にし、耳にします。

いっほいいいっほいぶつからず、ケンカして、涙を流した経験を積み重ねて、今、ジワジワ、ジワジワと 共にいることが楽しい、一緒に遊べるのが面白い、思いが通じ合うのが嬉しい、「仲間」なんだという気持ちで、どんぐりさんたちの互いのバの中に湧いて来ているように思います。

私がパシヨンスタッフという全く別の業種から、保育士という未知の世界に飛び込むと、ひっぴに見学に来たのがちょうど三年前の今頃でした。そこからサポートスタッフを経て、翌春、正規スタッフとなりひっぴの生活が始まり、ただただ無我夢中の今日まででした。どんぐりさんの2歳の育ちとして、手が出ること、涙にたまることは言葉の替わり。と、わかってはいても、どんぐり同士が近づくとき私はドキドキ、目が離せないと周りをウロウロ。

けれど、その言葉にたらない思いを出し合ったどんぐりさんたちが、今こどもにも豊かに関わり合っている姿を目の当たりにし、子どもたちの中に育たぬものを実感しています。あのぶつかり合いが、どんぐりさんにとって本当に大切だったと思えること、そう思える育ちの現場にいられることが、とても嬉しい。初めて保育士として働き始めた場所で、そのことを大切にしながら、保育が出来るとは本当に幸せなことだと感じています。

これから初めての冬を迎えるどんぐりさんたち。すでに寒さに涙する姿も見られます。手袋はしたくない、窮屈なスウェーダは嫌、でもどうしようもない寒さに涙。

去年どんぐりだった今のまつぼっくりさんたちも、去年の今頃は同じようでした。それでも今、まつぼっくりさんたちは寒さの中、上着を脱ぎ捨てて遊び回っています。寒ければ自分で手袋もはめています。去年の姿をすっかり忘れてしまっそうです。

おあきいくみの子どもたちは「冬、楽しんでね! そりも出来るし、雪で遊べるし!」と言います。どんぐりさんにとっても、関わりが深まった仲間たちと一緒に、涙はあっても嬉しい時間のいっほいつまた冬になるといいなあ。

そうなるように、この冬は子どもたちと何をしちゃおうか? と、考えながら私もひっぴの三回目の冬を、迎えようとしています。

: 律子

おおきいくみだより

おおくりさんが秋のキャンプでやろうと計画していた“ひろひろまつり”
時間切れでキャンプ中に出来なかった為「どうしようか?」とおおくりさんに
投げかけると「ひろひろのみんなでやりたい」という声上がり、おおくり
主催のひろひろまつりを行うことになりました。

おまつりの内容は『龍の舞を演じる(龍神祭りの真似)』『秋の実を
使ったお店やさんを開く』『風車拾い(小学校の運動会でやっていた
のだそう)』というもの。『風車拾い』は試しにやってみると、礼くん
「どんぐりさんは風車の取り合いになっちゃうかも。教えてあげながらやろうよ」
果乃らん「風車が地面にあると取りづらいから台の上に置いたらどう?」
空太くん「ゴールテープ持つ人がいるよね?」大權くん「そうだね!それやりたい!」
咲美ちゃん立くん颯希ちゃん「よーいドンと言う人になる」と、考えを伝え合い
やり方を決めていきました。『お店やさん』については、お店やさんには
どんなお仕事があるか想像してみることに。すると、「いらっしませーって言う
人」「レジでお金もらう人」「買ったものを袋に入れる人」などが出てきたので
係りを決めてやることになりました。また、どうやってみんなにひろひろまつり
のお知らせをするのかについては、「人づつに招待状を渡したい」
という案でみんなの思いが一致。果乃らんと颯希ちゃんが書いて、
全員に招待状を配りました。

前日は風車を作ったり、お店やさんで売るものを作ったり大忙しだった
おおくりさん。でもその姿はとっても楽しそうでした。

そして、ひろひろまつりの日(11月15日)

『龍の舞』は空太くんが作った「ひろひろひろひろ」の替え歌をうたい、
他の人たちがそれに合わせてキャンプで作った龍を持って登場。
観客のみんなの前を通り、森の奥へと進む龍...これはなんだか
とても微妙な感じ...見ている人たちも不思議そうな表情をして
いました。でもやり切った感はありました。『風車拾い』は構想を
練った甲斐があったようで、どんぐりさんもウキウキした様子で思い切り
走っていました。湖雪ちゃん菜子ちゃん(はじりく)と風車を選び、ゴール
まで走りました。松ぼっくりさんも気合いたっぷりでスタートを待っていました。

英志くんは張り切りすぎて、風車を取ることを忘れてしまうというハプニングも...
最後に『秋の実のお店やさん』が開店。お金代わりのどんぐりを握り
しめ、どれにしようか悩む子がいたり、おおくりさんにおすすみを聞く子が
いたり、お店やさんは大賑わいであつたという間に完売しました。

おまつりが終わってから、おおくりさんは輪になって「やってみてどうだったか」
話をしました。「あつたという間に終わっちゃった」「もう一回、お祭りしたいな」
「お店やさんは1個しか買えないのがかわいそうだった」「みんなに喜んで
もらえて良かった」という声が上がりました。出来て良かったというほとした
気持ちと、もっとやりたいという思いがあるんですね。自分たちで考えたことが
出来たという実感をかみしめている様子でした。

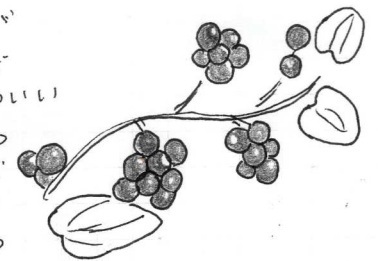
「楽しいことをしてみんなに喜んでもらいたい」「楽しいことはみんなで
やりたい」そんな思いから始まり、話し合いをして、準備をして、
やつと実現できたうれしい1日となりました。

(慶子)

ひろひろの森の木の実たち 11月 アオツツラフジ (青葛藤)

森の木はもほとんど葉をおとし、葉を取って冬がまもなく始まります。11月は雪もまだ
おこらず、おわり、少し森は寂しい感じのする季節です。でも落ち葉を踏みしめ
ゆっくりと歩くと、今までの季節では葉に覆われて見えなかった木の
実やキノコ、あけた木の穴や鳥たちの姿がよく見えるようになります。『こんどどこにも』
と発見の楽しい季節です。それからひろひろでは少しづつクリスマス準備の
ために木の実やリースに使う「つる」をお散歩のたびに集めたり、採集の楽しい
季節でもあります。色々と煌びやかに飾るのもよいけれど、森のリースは木の実たちの
そのままだけや色が素敵で、くるとただまじめにただけでも存在感がよい感じ
になります。

そんなツルの中でもみつけるとつい手をのびてしまうのが
「アオツツラフジ」です。真っ青い実がうっすらと赤い実と
素敵でこれを1cmほどとってくるとまじるとそれにはかわいい
リースになります。少し色は落ちますが、冬の団飾りや飾り
に使う、また青い実は、漬物としても使いますが、毒もあるので
子どもたちが口にいれないよう気をつけて下さい。小さく
つるかごを編んだりするのもよい葉物です。おおきいくみの
子たちとよくかごを編みました。晩秋の季節ならではの森の楽しみをみつけてみませんか?



：菜々貴

